

## 「大日本海岸実測図」の紹介と岬角名への崎の使用について

中嶋 暹 : 海洋研究室

### Introduction of “Collected Japanese Hydrographic Office Charts” and the Usage of Chinese Character ‘崎’ for Points of Land

Tei Nakajima : Marine Research Laboratory

「大日本 海岸実測図 海軍水路局」と表題が箔押しされた、日本版海図を集成製本した図集が、水路部に保存されており、これとほぼ類似の物が国会図書館にも保存されている。Contents 頁には、ローマ字で図名が録されている。ここには「海軍図書之印」の角印と、「甲」の小丸印と、「海軍文庫 | 英図 号」の縦長印が押されており、海軍文庫 | 英図「壺式六」号「1」と縦書で墨書され、縦長印の欄下にも「(1)」と墨書されている。Contents そのものは、図集内番号とローマ字の図名のみで「第1表 目録」のとおりであり、括弧内は註記である。

製作期日は記していない。この図集の図集内番号に従って、海図番号、日本図名を書いたものが「第2表 集録図目」である。なお、図積の拡大が要望されることなどにより、改版が行なわれるようになったのは明治11年以後であり、大きい図積の図を作る努力の結果、広い銅版が入手できるようになり、現行の図積区分が採用されるようになるのは明治15年以後のことである。また明治5年12月に新暦が採用され、旧暦5年12月3日は新暦6年1月1日と定められた。

この図集内の海図のうち刊行年の一番新しいものは、明治11年12月5日（No95北海道東部）であること、明治11年11月改版の釜石港は図集に含まれるが、数ヶ月後の明治12年2月に改版される寿都港、宮古港の改版図が含まれていないことから、明治12年のある時期までの水路局が実測を行って刊行している海図全てを、図集を作る目的で刷って、集成した物と考えられる。当時これ以外に覆版海図が刊行されていたが、この図集は実測図と銘うった手前、我が国の測量が付加された海図ばかりが集成されたと考えられる。この図集集成の一つの目的として柳橋悦が外遊後、外国との海図交換を推し進めていたことや、明治11年のパリ博覧会に日本海図をまとめて出展したことに関わって、集成された可能性が推定される。

集録海図の態様について略記する。図郭外の海図番号の表記のうち、アラビア数字の番号は銅版印刷でなく、印刷後の刻印で入れてあるものもある。装丁の大きさは、54.5×67.5cmである。図積については、適宜の小さな図積の図が多い。図によって異なるが、見開きの二つ折りの集録様式が多い。図積の大きいものは二つ折り以上に折り返してあり、折り返し部の傷みが激しい。白さの強い洋紙が使用されており、銅版で刷って耳を落とさずに残してあるので、銅版面全体が浮き出している。装丁は傷みが甚しく、漢字タイプ用紙で綴じ代を作り綴じてある部分もあり、後年の修復が明瞭である。

刊行日によりこの図集内の海図を時間軸に並び換え、各海図での岬角名への崎・崎などの使用状況を集落名と岬角名の使い分けに留意して読み取った事項を記すと、「第3表 岬角名への崎・崎の使用状況」のようになる。

遡って、水路部保存の模写伊能図のほか江戸時代の海路図誌類に当たってみると、岬角名には、通常の筆法として岬・鼻が使われるほか、「崎」又は「寄」も使われていた。その後も、第3表によれば、岬角名には世間の慣用どおり岬・鼻や、「崎」又「寄」を付けていた。しかるに明治9年3月刊の海図番号47相摸国横須賀之図を初見として、岬角名に対して、岬・鼻はそのままにして、「崎」又は「寄」の代わりに「埼」が使われ出し、途中混乱はあるが「崎」又は「寄」なる岬角名は徐々に使われなくなり、集落名にまで「崎」又は「寄」に代えて「埼」が使われるようになった経緯が読み取られる。

この図集には含まれない初期の海図のうち、見ることができたのは旧暦明治5年8月刊の海図番号1陸中国釜石港のみであるが、そこでは勿論「崎」が使われている。印刷原版の作成までには時間を要したであろうから、初見が明治9年3月であることは、既に明治8年に、刊行海図上の岬角名について、岬・鼻などは揃いて、「崎」及び「寄」だけを「埼」へ統一しようとする、もしくは集落名を含めて全ての「崎」又は「寄」を「埼」に統一しようとする、意志決定がなされていたと想像される。このことは明治8年5月に、沿岸各府県に照会して、地名の調査を始めたこととの関連が推測されるが、まだこの達を見る機会を得ていない。

「埼」への統一は、善意に解釈すれば、岬角名と集落名との識別を意図したと考えられるが、集落名をも「埼」に変えた例も多いので説得性に乏しい。水路部に僅かに残存する当時の資料を管見したが、この辺の経緯は明らかでない。些細ながら知り得たことは以下のとおり。なお康熙字典には、「崎」は「曲岸なり。曲岸と訓じ碕の字と音義ならびに同じ。埼、隄、埼、碕ならびに通ず」などと集録されており、「埼」は「曲岸の頭なり。或は碕、崎、隄に作る」などと集録されており、本来は「崎」も「埼」も同じであることがわかる。

後年の水路要報的なもので、航海結果や潮流観測結果を実験（実際に現場に於て験すこと）に基づき記録したものや、外国水路誌の訳などを集録した「水路雑誌」が明治9年に創刊されている。やや詳細に過ぎるが、その中の岬角部の表現を跡づける。

明治9年5月刊行の水路雑誌の1、2号合冊では、1号は、カムチャッカ州の記述で、岬角部の地名として岬と角が使われ、岬角部を一般的に言う時には、東角、南の角などと使われている。2号はシムシル島の記述であるが、岬角部についての言及はない。明治9年10月刊行の3号の朝鮮南岸の記述では、岬角部の地名として頭（ヘッド）、岬が使われ、岬角部を一般的に言う時には右頭、南岬が使われている。一般に外地の地名については、現地の呼称名に加えるに地形もしくは先占付与名に加えるに地形の表現（ラペルーズ+海峡の類）がなされ、岬角部については地形として岬や角が使われることが多いので、「崎」か「埼」を使おうという意志決定がなされていても、読み取れない。明治9年11月刊行の4、5、6号合冊では、4号で、津軽海峡の潮流が記述されており、汐首岬、汐首崎、汐首埼と岬、「崎」、「埼」が混交して使用されている。その他矢越埼、愛佐武埼が使われている。「埼」は水路雑誌では初見である。またこの4号で、誤植が貼付紙で訂正されたり、3号の正誤表が付けられたりしており、正誤に相当に気を使っていることが読み取れる。なのに汐首岬、汐首崎、汐首埼の混用は訂正されていない。5号は山川港の記述で、岬角部の地名には明らかに「埼」が使われている。長埼、大山埼、多良埼であり、「崎」は見られない。岬角部を一般的に言う時は北岬と使われている。集落名への崎の使用例はない。6号は対馬網代湾の記述であり、岬角部の地名には尉殿埼、礪埼、雷埼と「埼」が使われており、岬角部を一般的に言う時には南角と使われている。集落名への崎の使用例はない。なお6号15頁には一ヶ所誤植が訂正されている。砂入り消しゴムで消した跡が明瞭な所に、ゴム印を使用したのか、黒色で「坦」の字を押して訂正されている。明治10年1月刊行の7号は朝鮮西岸の

記述で、岬角部の地名には角、岬が使われ、岬角部の一般的記載には、北岬、南角、角端などが使われている。明治10年5月刊行の8号は、朝鮮東岸についての露国水路誌の摘訳がなされており、岬角部の地名には岬が使われている。岬角部の一般的記載に、小岬、「埼」が使われており、その例として、48頁の「湾をなせる埼」や50頁の「山峯埼岬」がある。明治10年9月刊行の9号は支那海の浅所報告の訳がなされており、岬角部の地名にはポイント角、ヘッド角が使われている。

明治11年5月刊行の10号は相豆駿遠各港水路誌が載せられている。水路誌の内容は、「海岸実測図」に含まれる相豆駿の国の海図を作成するための測量の際に書かれた記事と思われ、図集内のそれぞれの海図に良く合致する。ただしこの記事の冒頭の白羽湾（遠江国にあり。現在の御前崎港の造成地付近を主とする湾入）のみは、対応する海図が図集に含まれていない。さてこの10号は完本でないのか、誤植を直そうと消しゴムで消して跡を埋めてない状態にある。一部には、上部余白にゴム印を使って訂正記事が入っている所もある。誤植を訂正しようとしながら消し跡を埋めてない所の内、「御前○」と○の部分が埋めてないのが1頁2頁で目立つ。これらは前後の意味からは岬角部を示すことは明らかで、本の出来上がりからは「埼」を埋めるべきであったのに、未だ埋めてない不完本だと考えられる。もともと「埼」と刷ったと類推され、統一的に岬角部に「埼」を使おうとする意志があって、訂正しようとする努力が完結していない状態と考えられる。「埼」から「埼」への途中過程を見られる実例が34頁にあり、「石室○」の○を部分は消し跡で埋めてないが、完全には消えてなくて、もとは「埼」が刷ってあったことが読み取れる。この10号では岬角部の地名として、御前埼、三保舌頭角、大久保鼻、大瀬埼、小脇埼、網屋埼、石室埼、龍ヶ岬、三石埼、狼煙埼、洲佐理鼻、爪木埼、タライ埼、日蓮埼、川名埼、真鶴埼、城山埼、諸磯埼が挙げられ、「埼」、角、鼻、岬が使われており、「埼」はない。集落名として上記のように御前○村という使い方がされている。そのほか下田の柿崎に対して「埼」が使っているが、これが海図7号の上では柿崎に作ってあることは第3表に示す通りである。統一意志で「埼」とあるべきを「崎」と慣用に従ってしまい統一し損なったか、集落名は「崎」と残すべきを「埼」と誤用したか。また岬角部の一般的記載には北角、山嘴、此角が使われている。以上に見て来たように、短い時間についての観察であるが、水路雑誌1～10号では「埼」が使われ出し、ある時期、「崎」と「埼」が混用されても気にとめない時代があって後、意識的に「埼」を使おうとした経緯が読み取れる。

なお本論から外れるが、10号の相豆駿遠各港水路誌には各港の記載の末尾に、「海図と照合しろ」という注記でなくて、「水路局出版日本海岸全図第○号ト照覧スヘシ」という注記がなされている。この第○号の数字は当時の海図番号ではない。この頃に海図とは別番号を付した Chart folio でも発行したのだろうか。参考記すと、白羽湾—日本海岸全図第8号、清水港—安良里罌—7号、妻良子浦—6号、下田港—真鶴錨地—5号、江島錨地・小網代港—4号である。

明治10年4月1日出版のゴム印が押されている「水路提要」によれば、岬との区別を意識して、「埼」を低い岬角部であると定義している。つまり、巻之二、航海訳語総論は洋海港湾部と島嶼岬角部に分けられ、島嶼岬角部の中で高角(PROMONTORY)、山嘴(HEADLAND)、頭(HEAD)、岬(CAPE)、「角或は埼」(POINT)などが区分されており、岬は「高角の外端著しく海面に斗出し其水に面する嘴の角を云ふなり佐田岬犬吠岬の如し」とされているのに対し、「角或は埼」は「海中に斗出すと雖も岬の如く著しからず且低き地を云ふ本牧角揚子江口飲水角の如し」とされている。このように明治10年刊の水路局の海図説明書（後年の

海図図式に当たる)である「水路提要」には、「埼」のみが使われ、「崎」が使われなくなっていることが注目される。

全てが創設の時代にあつて、試行錯誤しながら体制を整えつつあつたことを考えれば、方針の決定実行までには相当の曲折と時間を要したことが考えられる。管見した資料から明確な裏付けは得られぬが、憶測を交えて「埼」へ変化の経緯を要約すると以下のとおりである。江戸時代から岬角部には岬、鼻の他「崎」又は「寄」が使われていたが、明治8年頃、水路部刊行物上では全て「埼」を使おう、もしくは岬角名の「崎」又は「寄」には「埼」を使おうと意志決定がなされたと想像され、それが現実海図の上に表われ出したのは明治9年からであり、水路雑誌でも同様である。短い期間混用に放置した後、明治10年には海図説明書である「水路提要」が発行され、岬角名としての「埼」が定義され、一般へも周知された。明治11年にもなると水路雑誌に見るように、岬角名への「埼」への統一の努力があからさまに行なわれるようになったと跡付けられる。集落名にまで一時「埼」を使用したことが特筆されるが、それを止めた時期は考察していない。

本稿は「海岸実測図」の紹介を行い、その集録海図の岬角名の表記について「埼」へ統一しようとした事実、時期についての指摘を行なつたにすぎない。集落名との識別の意図があまり説得性がないとすると、何のために「埼」への変更が意識的になされたのか、これからも検討を続けて行きたい。おわりに、部内資料の閲覧、資料の存在の教示に協力頂いたり、拙文に対して教唆に富む批判を下された部内の皆様へ感謝します。

第1表 目 録

Contents

Japanese Hydrographic Office Charts

1 General Chart of Japan	30 Liu Kiu & adjacent islands
2 Tokei Bay	31 " Nafa-Kiang Roads
3 Yokohama Bay	32 " Port Unteng
4 Entrance of Tokio Bay	33 Kerama Channel
5 Uruga Harbour	34 { Yayeyama island (別図)
6 Yenoshima Anchorage	Ishigaki Anchorage
7 Shemoda Harbour	35 Ishi no maki Bay
8 Coajiro Harbour	36 Kamaishi Bay
9 Idzu Peninsula	37 Miyako Bay
10 " Port of Me-ra & Co-ura	38 Ōhata
11 " " " Tago & Arari	39 Awomora Anchorage
12 Heda Harbour	40 Nofitsi Anchorage
13 Bay of Yenoura	41 Port Ando
14 Shimidzu Harbour	42 Mim-maya Bay
15 { Sazara Harbour (別図)	43 Hok-Kai-Do
Ōshima Kamize	44 Goyomai Channel
16 Uwasima Bay	45 Nemoro Anchorage
17 Saga no seki	46 Notske Anchorage
18 I-no-kushi Bay	47 Coast of Kushunkotan
19 Fuku-ura Bay	48 { Otaru Harbour (別図)
20 Gulf of Kagoshima	Sut-ts Harbour
21 Yamagawa Harbour	49 Fukushima Bay
22 Wakamats-ura	50 Fusan Harbour
23 Taino-ura	51 Shun ten po
24 Itsuhara & Asu Harbour	52 Cheimuru-po Anchorage
25 Aziro Bay	53 Kioseito Chokumi Bay
26 { Isso Bay of Yaku Island (合図)	54 Chōsan Anchorage
Bay of Kuchi-no-yerabu	55 Kio-sei island & Kan San Sea
27 Amami Ōshima	56 Kioseito Kahairio
28 Naze Harbour	57 Olbee Strait
29 Strait of Oshima	

第2表 集録図目

図集内 番号	海図 番号	図名	図載刊行日付	明治年 紀 (西暦年紀)	注	記
1		(図集に欠けている。)	明治11年4月刊のものか			
2	9	武蔵国東京海湾図	明治6年6月13日	6 (1873)		
3	39	武蔵国横浜湾	神武2534年9月23日	7 (1874)		
4	47	相摸国横須賀之図	明治9年3月(日付けなし)	9 (1876)		
5	91	相摸国浦賀港之図	明治11年5月23日	11 (1878)		
6	86	相摸国江之島錨地	明治10年7月9日	10 (1877)		
7	7	伊豆国下田港之図	明治11年11月25日	11 (1878)		(明治11年11月に実測により新刊されたもので、明治6年4月刊のものでない)
8	87	相摸国小網代港之図	明治10年7月9日	10 (1877)		
9	88	伊豆国熱海近海図	明治10年6月20日	10 (1877)		
10	82	伊豆国妻浦子浦両器図	明治10年4月20日	10 (1877)		
11	84	伊豆国田子及安良里器之図	明治10年4月30日	10 (1877)		
12	85	伊豆国戸田港之図	明治11年5月28日	11 (1878)		
13	92	駿河国江之浦湾之図	明治10年7月31日	10 (1877)		
14	89	駿河国清水港之図	明治10年8月10日	10 (1877)		
15	11	伊勢国磯港之図	明治6年9月17日	6 (1873)		
15一別図	62	大島神瀬補測之図	(刊行期日の記載なし。 明治6年9月刊か?)	6 (1873)		(後年の補正図に当たるというが、62号という海図番号が付いている)
16	68	伊予宇和島湾	明治10年3月13日	10 (1877)		
17	66	豊後国佐賀関	明治9年12月15日	9 (1876)		
18	94	豊後国猪之串港略測図	明治10年10月5日	10 (1877)		
19	77	長門国彦島福浦港	明治9年6月27日	9 (1876)		
20	26	薩隅内海之図	神武2534年3月2日	7 (1874)		
21	12	薩摩国山川港之図	明治7年1月19日	7 (1874)		
22	73	五島若松浦略測図	明治9年6月20日	9 (1876)		
23	72	五島鯛之浦略測図	明治9年6月25日	9 (1876)		
24	63	対馬国巖原及阿須港	明治9年10月20日	9 (1876)		
25	64	対馬国網代湾	明治9年7月(日付けなし)	9 (1876)		
26一合図	25	大隅国口永良部島港図、屋久島一湊之図	神武2534年3月8日	7 (1874)		
27	45	奄美大島全図	明治9年10月3日	9 (1876)		
28	29	大島名瀬港図	神武2535年11月15日	8 (1875)		
29	35	奄美大島海峡西部図	神武2534年8月9日	7 (1874)		
30	34	琉球群島之図	神武2534年6月15日	7 (1874)		
31	19	大琉球那覇港之図	明治7年5月16日	7 (1874)		

32	18	琉球国運天港之図	明治4年8月15日	7 (1874)	(括弧を付けて1874年と記載あり。明治4年は7年の誤刻か?)
33	24	琉球群島西部慶良間海峡図	神武2534年2月10日	7 (1874)	
34	17	八重山全島図	明治6年11月25日	6 (1873)	
34一別図	23	八重山石垣港図	神武2534年2月10日	7 (1874)	
35	81	陸前国石巻湾略測図	明治10年5月20日	10 (1877)	
36	1	陸中国釜石港	西暦1878年11月(日付なし)	11 (1878)	(明治11年11月に大尺へ改版されたもので、旧暦明治5年9月刊のものでない)
37	3	陸中国宮古港之図	明治5年10月2日(旧暦)	5 (1872)	
38	38	陸奥国大畑浦之図	神武2535年10月3日	8 (1875)	
39	52	陸奥内海青森湾図	神武2535年5月25日	8 (1875)	
40	37	陸奥内海野辺地湾	神武2535年10月10日	8 (1875)	
41	36	陸奥内海安渡湾図	神武2535年10月8日	8 (1875)	
42	70	陸奥国三厩湾	明治9年6月30日	9 (1876)	
無番	10	津軽海峡之図	(刊行期日が印刷されていない。明治6年6月刊のものか?)	6 (1873)	(英文表題は Tsugar Strait. Contentsにも含まれておらず、後に図集に増補されたものようである)
43	93	北海道東部	明治11年12月5日	11 (1878)	
44	8	根室国瑤瑠水道之図	西暦1878年7月(日付なし)	11 (1878)	(明治11年7月に大尺へ改版されたもので、明治6年1月刊のものでない)
45	20	根室国根室港之図	明治7年4月18日	7 (1874)	
46	2	根室国野付錨地	西暦1878年5月(日付なし)	11 (1878)	(明治11年5月に大尺へ改版されたもので、旧暦明治5年10月刊のものでない)
47	28	樺太国楠溪海岸図	神武2534年3月8日	7 (1874)	
48	5	後志国小樽港之図	明治5年11月8日(旧暦)	5 (1872)	
48一別図	4	後志国寿都港之図	明治5年11月10日(旧暦)	5 (1872)	
49	69	渡島国福島湾	明治9年6月28日	9 (1876)	
50	60	朝鮮国釜山港	明治8年3月31日	8 (1875)	
51	67	朝鮮南岸全羅道順天浦略測図	明治9年10月31日	9 (1876)	
52	71	朝鮮国西岸済物浦泊地略測図	明治9年6月29日	9 (1876)	
53	74	朝鮮国巨済島猪仇味略測図	明治9年7月3日	9 (1876)	
54	75	朝鮮西岸漢江口頂山泊地略測図	明治9年6月29日	9 (1876)	
55	78	朝鮮国巨済島及閑山海	明治9年12月28日	9 (1876)	
56	76	朝鮮国巨済島加背梁略測図	明治9年6月28日	9 (1876)	
57	79	朝鮮国京畿道月尾島海峡略測図	明治10年3月8日	10 (1877)	

第3表 岬角名への崎・埼の使用状況

図集内 番号	海図 番号	図 名	図載刊行日付	明治年紀 (西暦年紀)	岬角名への崎・埼の使用状況ほか
37	3	陸中国宮古港之図	明治5年10月2日(旧暦)	5(1872)	崎を使用。他に岬角名の記載なし。
48	5	後志国小樽港之図	明治5年11月8日(旧暦)	5(1872)	崎を使用、地藏崎。岬角名として振島岬、神溪岬、間摺岬。
48	4	後志国寿都港之図	明治5年11月10日(旧暦)	5(1872)	岬角名として、弁慶岬、雷電岬、神溪岬が使われているが、崎も埼も図中に不出。
2	9	武蔵国東京海湾図	明治6年6月13日	6(1873)	品川の北方に瀏崎、越中島の東方に瀏崎あり。集落名か。中川河口の西岸に矢竹鼻。
無番	10	津軽海峡之図	(明治6年6月刊のものか?)	6(1873)?	平面図では岬角名は全て崎を使用。対景図では当別岬、箱館岬。
15	11	伊勢国礪港之図	明治6年9月17日	6(1873)	図中にローマ字を記入し、ローマ字を索引に和文地名表が付いている。集落名が多いが、島名、山名もある。その中にB-田曾と集落名があつて、C-田曾崎と岬角名に崎を使用。岬角名は田曾崎のみ。
15	62	大島神瀬補測之図	(明治6年9月刊か)	6(1873)?	ローマ字注記のみで、崎も埼も図中に不出。
34	17	八重山全島図	明治6年11月25日	6(1873)	崎及び岬を使用。他に岬角名として南岬。
21	12	薩摩国山川港之図	明治7年1月19日	7(1874)	崎を使用、大崎、長崎。他に尾掛鼻、赤水鼻。
34	23	八重山石垣港図	神武2534年2月10日	7(1874)	崎を使用、美崎、宮崎、東美崎、ヨソ崎、御美崎。他に岬角名はない。
33	24	琉球群島西部慶良間海峡図	神武2534年2月10日	7(1874)	岬角名に六番岬、阿波連岬(図中記事)、渡嘉敷鼻(対景図)はあるが、崎も埼も図中に不出。
20	26	薩隅内海之図	神武2534年3月2日	7(1874)	崎及び岬を使用、クスワ崎、大崎鼻、大崎、燃崎など。他の岬角名に三船鼻、割石鼻、浮津鼻など。集落名に瀏崎。
26	25	大隅国口永良部島港図、屋久島一湊之図	神武2534年3月8日	7(1874)	図中に地名なし。
47	28	樺太国楠溪海岸図	神武2534年3月8日	7(1874)	岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。
45	20	根室国根室港之図	明治7年4月18日	7(1874)	岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。
31	19	大琉球那覇港之図	明治7年5月16日	7(1874)	崎及び岬を使用、雪ヶ崎、浪上崎、先花崎。他に岬角名はない。
30	34	琉球群島之図	神武2534年6月15日	7(1874)	崎及び岬を使用。他に岬角名はない。
29	35	奄美大島海峡西部図	神武2534年8月9日	7(1874)	崎及び岬を使用、芝浦崎。他の岬角名に鼻あり。

32	18	琉球国運天港之図	明治4年8月15日(7年 の誤刻か)	7(1874)?	対景図に崎を使用、ヤカチノ崎。他に岬角名はない。
3	39	武蔵国横浜湾	神武2534年9月23日	7(1874)	岬角名の記載はなく、崎も埼も図中に不出。いわゆる本牧鼻は、本牧と記され Mandarin Bluff と英文が付されている。
50	60	朝鮮国釜山港	明治8年3月31日	8(1975)	和文式の岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。(Kasi-no-saki) East Point。
39	52	陸奥内海青森湾図	神武2535年5月25日	8(1875)	岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。
38	38	陸奥国大畑浦之図	神武2535年10月3日	8(1875)	岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。
41	36	陸奥内海安渡湾図	神武2535年10月8日	8(1875)	対景図及びその題名に岬角名として、黒崎を使用。天測点の記載に安渡洲崎とある。
40	37	陸奥内海野辺地湾	神武2535年10月10日	8(1875)	岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。
28	29	大島名瀬港図	神武2535年11月15日	8(1875)	岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。
4	47	相模国横須賀之図	明治9年3月(日付け なし)	9(1876)	埼を使用。黒埼、箱埼、観音埼。大崎鼻という岬角名もあり。
22	73	五島若松浦略測図	明治9年6月20日	9(1876)	崎を使用、アブル崎。
23	72	五島鯛之浦略測図	明治9年6月25日	9(1876)	岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。
19	77	長門国彦島福浦港	明治9年6月27日	9(1876)	岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。
49	69	渡島国福島湾	明治9年6月28日	9(1876)	イワヒサキはあるが、崎も埼も図中に不出。他の岬角名に矢越岬、マツクラ岬、白神岬あり。
56	76	朝鮮国巨済島加背梁略測図	明治9年6月28日	9(1876)	岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。
52	71	朝鮮国西岸済物浦泊地略測図	明治9年6月29日	9(1876)	岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。
54	75	朝鮮西岸漢江口頂山泊地略 測図	明治9年6月29日	9(1876)	岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。
42	70	陸奥国三厩湾	明治9年6月30日	9(1876)	岬角名は高野岬、竜飛岬のみ。集落名に山峯あり。
53	74	朝鮮国巨済島猪仇味略測図	明治9年7月3日	9(1876)	岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。
25	64	対馬国網代湾	明治9年7月(日付け なし)	9(1876)	埼を使用、礪ノ埼、雷埼、尉殿埼。他に岬角名はない。
27	45	奄美大島全図	明治9年10月3日	9(1876)	埼を平面図中に使用しているが、対景図では大久呂崎、市崎を使用。他に岬も使用されている。
24	63	対馬国巖原及阿須港	明治9年10月20日	9(1876)	埼を使用、大棍埼、曲埼、虎埼など。他に岬角名として寝釈迦鼻。
51	67	朝鮮南岸全羅道順天浦略測図	明治9年10月31日	9(1876)	岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。
17	66	豊後国佐賀関	明治9年12月15日	9(1876)	岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。
55	78	朝鮮国巨済島及閑山海	明治9年12月28日	9(1876)	カルベツ岬の他には、岬角名の記載なく、崎も埼も図中に不出。

57	79	朝鮮国京畿道月尾島海峡略測図	明治10年3月8日	10 (1877)	岬角名の記載なく、崎も崎も図中に不出。
16	68	伊予宇和島湾	明治10年3月13日	10 (1877)	崎を使用、大良崎。岬角名はこれのみ。
10	82	伊豆国妻浦子浦両器図	明治10年4月20日	10 (1877)	崎も崎も図中に不出。他の岬角名では龍ヶ岬がある。
11	84	伊豆国田子及安良里器之図	明治10年4月30日	10 (1877)	岬角名の記載なく、崎も崎も図中に不出。
35	81	陸前国石巻湾略測図	明治10年5月20日	10 (1877)	崎を使用。他に岬角名として岬、鼻を使用。さらに集落名にも崎を使用、代崎浜、狐崎浜、桐ヶ崎。
9	88	伊豆国熱海近海図	明治10年6月20日	10 (1877)	崎を使用、真鶴崎、大崎、また図中記事に爪木崎。他の岬角名はない。
6	86	相摸国江之島錨地	明治10年7月9日	10 (1877)	崎を使用、小坪崎、大前崎。他の岬角名はない。集落名に茅ヶ崎。
8	87	相摸国小網代港之図	明治10年7月9日	10 (1877)	崎を使用、黒崎、城山崎、諸磯崎。他の岬角名はない。
13	92	駿河国江之浦湾之図	明治10年7月31日	10 (1877)	崎を使用、大瀬崎、若松崎、松ノ崎。他の岬角名はない。
14	89	駿河国清水港之図	明治10年8月10日	10 (1877)	岬角名の記載なく、崎も崎も図中に不出。
18	94	豊後国猪之串港略測図	明治10年10月5日	10 (1877)	崎を使用、野崎、他に岬角名に大崎ノ鼻、名護屋岬などあり、集落名に森崎浦。
5	91	相摸国浦賀港之図	明治11年5月23日	11 (1878)	崎を使用、観音崎、灯明崎。他に久里浜湾の東側を限る岬角名が大塚がある。現行は大塚鼻。
12	85	伊豆国戸田港之図	明治11年5月28日	11 (1878)	岬角名の記載なく、崎も崎も図中に不出。
46	2	根室国野付錨地	西暦1878年5月(日付なし)	11 (1878)	岬角名の記載なく、崎も崎も図中に不出。
4	8	根室国瑤瑠水道之図	西暦1878年7月(日付なし)	11 (1878)	崎を使用、金毛崎、舟見崎、鷺巣崎、夕霧崎。他の岬角名として納沙布岬がある。
7	7	伊豆国下田港之図	明治11年11月25日	11 (1878)	崎を使用、狼煙崎、赤崎。他の岬角名にスサリ鼻。集落名には柿崎と洲崎村を両用。
36	1	陸中国釜石港	西暦1878年11月(日付なし)	11 (1878)	崎を使用、鏡石崎、釜ヶ崎、立鐘崎ほか。他に岬角名はない。
43	93	北海道東部	明治11年12月5日	11 (1878)	崎を使用、仙鳳趾崎のみ。他の岬角名には岬を使用。

#### 報告者紹介



Tei Nakajima

中 嶋 逞 昭和63年3月現在、  
本庁水路部企画課海洋研究室長